

## 令和6年度未来を創る学力向上支援事業に係る未来を創る授業力向上協議会（小国語）

### 1 目的

各小学校及び義務教育学校前期課程の教員等を対象に、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり及び授業改善に関する講義・説明等を行うことにより、小学校教員の指導力向上を図り、もって児童の学力向上に資する。

### 2 主催 大分県教育委員会

### 3 期日 令和6年6月28日（金）13:30～16:25

### 4 場所 別府国際コンベンションセンター（ビーコンプラザ） 中会議室

### 5 内容

#### （1）開会行事「大分県教育委員会あいさつ」

大分県教育庁義務教育課 参事 山川 明宏

#### （2）行政説明及び協議「大分県小学校国語科の課題と授業改善」

〈説明者〉大分県教育庁義務教育課 課長補佐兼指導主事 瀧口 忍

R5年度の県・全国学調の結果から、小学校の子どもたちに一定の学力の定着が見られる。  
質問紙調査の結果から、愛好度について課題があることがわかっている。

#### 「ニフティキッズアンケート調査2023」より

＜好きな理由＞

いい点が取れる、達成感、  
新しい知識、やった分だけできる

＜嫌いな理由＞

面倒、楽しくない、難しい、  
他人と比較される、成果が出ない、  
役に立たない



- ・「何をどのように学ぶか」について、児童が見通しをつかめぬまま授業を進めていないか
- ・楽しく活動はできたが、何を学び、どんな力が付いているかわからない授業になっていないか。
- ・日々の授業を見直す必要があると考えている。

#### 「小学校国語科の改善の重点」

1. 単元で育成を目指す資質・能力を明確にすること
2. 資質・能力を育成するための言語活動を位置付けた単元を構想すること
3. 単元の構想に当たっては、各時間の具体的な学習活動及び単元のどの段階でどのような評価規準に基づいて評価するのかを明らかにすること
4. 単元における評価方法（評価材）を工夫するとともに、それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえ、「Bと判断する状況」の例及び「Cと判断する状況」への手立ての例を想定すること

「確実な資質・能力の育成」には、児童に育成する力がどこまで身に付いているのかについて教師自身が正しく把握することが必要である。実際には、曖昧な見取りで曖昧な評価をしている授業が散見される。

## 「単元構想について」

### <ポイント1>

単元の構想に当たっては、各時間の具体的な学習活動及び単元のどの段階でどのような評価規準に基づいて評価するのかを明らかにすること。

### <ポイント2>

実際の学習活動を踏まえ、「Bと判断する状況」の例、及び「Cと判断する状況」への手立ての例を想定すること。

## 「形成的評価の重要性」

「習熟の程度に応じた指導」を踏まえた授業改善を進めるため、以下について確認

1. 児童生徒の学習状況を確実に把握するための具体的な評価規準を設定する。  
    **※どのような児童生徒の姿が見られれば、目標を達成したと判断できるか**
  2. 全ての児童生徒が授業内で達成できるよう、適切なタイミングで児童生徒の学習状況を見取る。
  3. 形成的評価により、設定した評価規準への到達が困難と判断した場合には、該当の児童生徒に適切な手立てを講じたり、学習展開を柔軟に変更したりする。
- ・単元を見通して授業を実践していく中で、どれだけ形成的評価が進められているか。
  - ・形成的評価が、実際の授業の中でどのように活用されているか。

## ★協議

1. 日頃の授業づくりでは、どのようなことを意識しているか

「指導と評価の計画の決定」に重点を置いて、協議を進める。

- ・教材：「ごんぎつね」
- ・指導と評価の計画：全10時間（3・4時間目の指導と評価について協議）
- ・協議テーマ：「ごんの気持ちや行動の原因となっている心情がわかる表現に着目させる。」

⇒**Q. 単元の目標を達成するために、このあとどのような指導が必要か？**

## 2. 考える際のポイント

- ① 昨年度見られている課題「知識及び技能」の確実な定着を図る
- ② 各時間の具体的な学習活動及び単元のどの段階でどのような評価規準に基づいて評価するのかを明らかにする



## 3. まとめ

- ① どの言葉を子どもたちにおさえさせるのか。
  - ・教材と向き合うことで、子どもたちに見つけさせたい言葉はどれか
  - ・どの言葉を理解させ、思判表を通してどのように理解させるのか
- ② この単元で育成したい力を、どのように児童に身に付けさせるのかについて具体的に考えていく必要がある。そのために、改めて、もう一度指導事項をもとに教材と向き合いたい。

### (3) 講義「小学校国語科における資質・能力の育成に向けた授業づくり」

<講師> 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程調査官・学力調査官 大塚 健太郎氏

授業力が子どもたちの力をつくる…という責任を自覚すること。

5年経って、現行指導要領に沿った授業ができているかの確認が必要。

どの言葉に着目して考えることで充実した学びになるのか。

言葉を増やすことが「語彙」について力をつけるということにはならない。

身に付けた言葉を通して、文章の内容を理解することが大事。

#### <指導の得意・苦手（小学校教員）>

国語は年数（キャリア）を重ねるごとに得意になる（上手になる）教科と捉えられている。

「子どもとの関係」や「子どもの実態を踏まえた授業づくり」ができているのかということを前提にそう捉えていることが大事。

#### <今、求められている授業を考えるには>

実態として「指導要領を見たことがない」と言う先生も少なくない。

5年目だからこそ「指導要領にどのようなことが書かれているか」を確認する必要がある。

「主体的・対話的で深い学び」は授業改善の視点であり、「指導と評価の一体化」や「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」が求められている。

求められている授業が生まれた背景を考えると「なぜ求められているか」が見えてくるはずである。

#### <2 国語科の改訂の趣旨及び要点>

学習の系統性を意識する。小中高を通して指導事項の視点が統一されたことの意味。

指導改善のための言語活動の創意工夫。子どもたちの姿をもとに創意工夫を続けていくことが大切。

読書活動は「情報を整理する」だけではなく、国語の見方・考え方を働かせ、正しく理解するための取組であることを理解する。

小学校の配当時間が、中学校・高等学校で生きて働く力をつけていく大事な時間であるということを一人一人が理解する。無駄な時間にするものがないように。

1・2年生の1日2時間以上の国語が何のために配当されているのか、改めて考えたい。

#### <改めて小学校国語科の目標を確認>

・力を意識しながら繰り返す ⇒ 定着することで無意識にできる = 熟達 … 「定着している」

・力を意識せずに取り組む ⇒ 無意識ではあるが、真似ている ≠ 熟達 … 「定着していない」

#### <知識及び技能「情報の扱い方」>

端末を使うことはできるが、情報の取り出し、情報同士の関係を整理することはできているだろうか。

情報の扱い方を「育成する力」として意識し、育てていくことが大切である。

どの指導事項と関連を図れば指導の効果を高めることができるか、常に考えながら単元づくりを行う。

#### <年間の指導を見通して>

単純に、教科書のとおりトピック単元や繰り返される単元を学習しても育成にはつながらない。

各教材をぎゅっとまとめて扱ったり、配列を変えたりしながら、効果的に学習できるよう単元づくりを創意工夫する必要がある。

#### <学習過程の充実>

どの領域でも「考えの形成」を重視している。

活動を通して何が育成されているのかを意識しなければいけない。

### <主体的・対話的で深い学び>

学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付けるためには、繰り返しの学習（行きつ戻りつの学習）が効果を上げる。必要なタイミングで効果的な対話を設定することにより、「考え」に深まりが生まれる。形式的に設定した対話では、「考え」に価値が生まれない。必要性・必然性が価値を生み、学びが定着する。

### <単元の指導と学習評価について>

スムーズに繰り返す学習の流れがうまくいくわけではない。失敗も認め、その原因を探り、次の学びに生かすことで効果的に授業・学習の改善につなげていく。平均値として記録に残すわけではなく、その都度評価規準も見直しながら、適切に見取ることができるよう再設定する。

### <実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿>

個に応じた授業づくりはこれまでも実践されている。ICTの活用で加速度的に環境改善されてきている。ただ、「バラバラな学び」は集団を崩していく。これからは、「協働的な学び」を通して、集団として向上していく学級集団を構築していく。

### <「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料>

「教科書の目次にあるから扱う」のではなく、「指導事項に示された力を育成するため扱う」ということを考える。「指導事項」を意識した年間指導計画が、漏れのない授業の積み重ねを可能とする。

「主体的に学習に取り組む態度」は、試行錯誤する姿や粘り強く取り組む姿を評価する。これは「思考力、判断力、表現力等」を踏まえて決定する。児童の実態に合わせ、複数設定された「思考力、判断力、表現力等」の目標からレベルダウンして設定することも可能。

